

かみじち 上寺地の弥生人の 子孫であることを誇りに

地下の弥生博物館

平成13年4月、1800年前の弥生人の脳が発見されたニュースが全国を駆け巡りました。発掘された場所は、青谷町の西側を流れる勝部川と東側を流れる日置川の合流点付近にあたる日本海に近い平野部で、上寺地と呼ばれる地域です。

平成8年、青谷羽合道路の建設に伴う調査中に、弥生時代の遺跡が発見されました。その後、本格的な発掘調査が行われ、世界的にもまれな古



石井 洋さん
Hiroshi Ishii

代人の脳をはじめ、土器、建築材などの木製品、漁労具などの骨角製品、工具類などの鉄製品や石器など多種多様な遺物がこの一帯から出土されたのです。

地名から「青谷上寺地遺跡」と名付けられたこの遺跡は、低湿地で真空パックのような状態だったため、保存状態も良く、中には日本初のももの含まれるなど、「地下の弥生博物館」と言われ、大きな注目を集めています。

そんな「青谷上寺地遺跡」の近くに住む石井洋さんは、上寺地の子孫であることの誇

あおやかみじちいせき 青谷上寺地遺跡 友の会

りを胸に、遺跡を通じて地域の活性化を図っていかうとしています。

上寺地遺跡に 魅せられて

石井さんが「青谷上寺地遺跡」に興味を持ったのは、地区の老人会が開催した、遺跡についての勉強会がきっかけでした。数学の教師をしていた石井さん。「歴史の知識はあまりありませんでしたが、話を聞いて、こんなすごいものが近くにあるなんて、びっくり」。さらに「地元にいる



ボランティアでガイドをする石井さん

自分たちがその価値に気づいていないのではないか。弥生時代の青谷をもっと学習してみたい」と強く感じたのとことです。

知り合い数人に声をかけてみると、すぐに「それはいい、やってみよう！」と賛同が得られ、平成12年に「青谷上寺地遺跡を学ぶ会」を発足。以後、定期的に学習会を開催しています。

平成13年8月、発掘された遺物を展示するとともに、弥

《12月の番組ガイド》

..... 鳥取市行政番組

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週火・金・土

週2回の番組で、鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【特集】

- ▷鳥取市政十大ニュース
- ▷市民Q&A(コミュニティ助成金)
- ▷小規模校特別転入制度
- ▷市税に関するお知らせ

火曜日は、週末に行われたイベントなどを中心に放送します。

静止画文字情報『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばぴょんぴょんネット
自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

二十世紀梨のせん定など、来年の収穫に向けた農作業の様子や、正月の準備に忙しい農村の話題をお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

砂丘の巨大イルミネーションづくりの話題や、地産地消のおせち料理講習会の模様などをお伝えします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介します。

お知らせ

いなばぴょんぴょんネットの番組が地上デジタルテレビでご覧になれます。設定や操作方法など、詳しくは下記にお問い合わせください。

情報をお寄せください！

いなばぴょんぴょんネット ☎ (0857) 22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。

番組はホームページでも紹介しています。

<http://www.inabapyonpyon.net>

2ch



発掘現場は青谷羽合道路のすぐ下です。

生時代の人々の暮らしや文化を紹介する「青谷上寺地遺跡展示館」が開設され、多くの人が訪れるようになりました。その様子を見ていた石井さんは、「ただ展示してあるだけでは、この遺跡の価値は分かってもらえない。もつ

と来館者の理解を深めていただくため、解説とはいかないまでも、ちょっとした説明なら青谷に住んでいる私たちがやろう。それが地域の活性化に繋がっていく」と考えました。そして、平成13年に、学友会に続き「青谷上寺地遺跡友の会」を発足させたのです。友の会の会員は、現在26人。ほとんどが青谷町の住人です。会では、定期的に展示館でボランティアガイドを行ってほかに、館主催の米作り・勾玉作り等の古代体験学習会の手伝いをするなど、活発に活動しています。石井

さんは、「たくさんの人に会えるのがうれしいです。特に、展示館でガイドして、関心を持って聞いてもらえたり、質問されたりすると、充実感があります」と目を輝かせます。

遺跡を 地域おこしの柱に

「いろいろな勉強して、青谷上寺地の弥生人が大陸と交流し、当時の日本でも誇りうる高度な技術とレベルで生活していたことが分かりました。子孫であることを誇りに思います」と石井さんは胸

を張ります。本年11月には、県埋蔵文化センターの秋里分室で行っていた「青谷上寺地遺跡」の調査研究・収蔵機能の一部が、青谷町総合支所2階に移転されました。石井さんは、「これをきっかけに、遺跡を地域おこしの柱にして何かできないかと考えています。でも、なかなかいい案が浮かびません」と苦笑い。「大昔の青谷もがんばった。私たちも、やろう！」。石井さんたちの地域の活性化への挑戦は、まだまだ続きます。